

ズレてる支援！

「？」とか「！」にも意味がある

『ズレてる支援！』を献本したのでいくつかお礼のメールをいただいて、しかし、最後の「！」(ビックリマーク)を抜かした「ズレてる支援」を書名として書いてきた人が結構いたので、う〜んと思った次第。

末尾に「！」がついているのは、もちろん意味がある。ズレていない支援など存在しない。どんなにがんばっても、つねにズレているのが支援であり、ズレていない(と支援者が思い込んでいる)支援がいちばんアブない。「ズレてる」なあ、かも、でもしかし、と思いつつ寄り添い続けるしかないのだぞ、という決意がこの「！」には込められている(多分)。

それにもかかわらず、地域移行の取り組みで名を馳せたさる方などからも(おそらく実際にはこの本を読んでいないと思うけど)「では次作は、ズレないための支援…ですかね。期待しています。」なんてズレた(失礼)コメントをFacebook でいただいたので、さらに少し悲しい。

ちなみに、「良い支援」の末尾に「？」がついているのは、そもそも「the 良い支援」という立て方そのものが「？」である、という意味だった。しかし、「？」が目に入らずに「良い支援について書かれた本」だと思って(勘違いして)買ってくれた奇特な(騙された?)人もいたのではないかな。まあ、それでも売れる方向ならまあいい。でも、さすがに、「the ズレてる支援」について書かれた本と思われたのではあまり売れないのではないかな。(それとも、「ヒヤリハット事例集」と勘違いして結構売れるかも：汗)

ともあれ、筆者一同が「？」とか「！」にこだわるのは、障害・福祉関係では、どや顔の「ズレないための支援」が蔓延しているからでもある。「療育」とか「発達障害」とかの人たちに特にその傾向が強く、でもそれにとどまらない。このところ特に気になっているのは「意思決定支援」なる新手である。もともとは supported decision making という横文字を翻訳した言葉だが、素直に訳せば「支援を受けた意思決定」、つまり想定されるその主語は決定する当事者、となるものをなぜかこれを支援する者が主語となる「意思決定支援」と意識し、それを障害者基本法改正や障害者総合支援法の条文に使っている。障害者権利条約に従うと見せかけて、こうやってこっそりと支援の専門家主導を密輸入するやり口はかなりあざとい(誰が?)と思う。

オランダの FGC (Family Group Conference) やオーストラリアの SDM(Supported Decision Making)モデルなどの海外の取り組みも、日本に紹介されること自体はよいことだと思うのだけれど、結局それが成年後見人や相談援助の「専門家」が行う「意思決定支援」の「技法」に回収されてしまうのではないかな、という危機感には関係者にあまり共有されていないようで頭が痛い。

さて、次回1月号の持ち回り連載執筆者は末永さんである。ご期待ください！

(岡部耕典)

